

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。(R2に修正)							
細事業別目標 【文化支援／普及事業】	教育や福祉など各分野に対して、芸術を通したラーニングの役割をしっかりと示しながら実施していきたい。(R2に修正)							
事業名称	アーティスト・イン・スクール	サポーター	アーツナビゲーター研修	表現の森継続事業	数値目標記載事項			
時期・日数	アーティスト・イン・スクール 2学期～3学期	(1)あいつひろば 11月～2月 2回 (2)オンライン講座 7月～12月 3回	7月～3月 4回	(1)アリスの広場 12回／1年 (2)南橋団地 4回／1年 (3)えいめい 0回／1年 (4)のぞみの家 3回／1年 (5)ハレルワ 12回／1年	(1)メンバーシップ会員 個人:90人(83人) ペア:50人(42人) 賛助:2人(1人) 法人:25社(21) 収入:1,000千円 (819千円) (2)先生の無料招待ウィーク 30人(19人) (3)内H30年度実績			
場所	市立宮城小学校	スタジオ・交流スペース	スタジオ・ギャラリー 館外	ギャラリー、館外(アリスの 広場、桃川小学校、南橋 団地、のぞみの家など)				
学芸担当者	今井、大井田	池上、大井田	今井、辻	今井				
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・アートによる対話を考える 実行委員会 ・令和2年 文化庁 地域 と協働した博物館創造活 動支援事業			・アートによる対話を考える 実行委員会 ・令和2年 文化庁 地域 と協働した博物館創造活 動支援事業				
最終修正日	2020/12/11	2020/12/11	2020/12/4	2020/12/11	2020/3/20			
【目的】 ・参加者層のターゲット ・ねらい	学校生活の中で質の高い 芸術に触れ、アーティスト との交流を行いながら 児童・生徒の表現力やコ ミュニケーション能力を育 成する。 ターゲット: (1)小学校～高校の児童・ 生徒、教員 ・児童・生徒が現代美術の 表現の多様性を知る ・アーティストと活動を行うこ とで、表現力が身につく	1.サポーターやアーティ ストによる多様な芸術体 験を通して、アーツ前橋 への来館促進を行い、将 来の自主的な鑑賞者を育 成する。 2.サポーターが企画・運 営のノウハウを身につけ る。 ターゲット:アーツ前橋に 来館したことのない親子(隣接 施設利用者等) ・初めて来館して造形活動 や鑑賞を体験しながら、 アーツ前橋は自己や他者 の表現が認められる場所 であることを理解する ・サポーターが企画や運営 へ継続的に関わる。	美術鑑賞は敷居が高いと 思っている人たちが作品 や作家についての知識を 得ることが作品鑑賞だと 考える人に、自分の眼で 作品鑑賞する楽しさを 知ってもらう。 ターゲット:事業主旨を理解 し、アートやコミュニケーシ ョンが好きな人 ・アーツナビゲーターのスキ ルアップと、研修後も自主 的な活動を行い、展覧会 などに「おしゃべりア ーティスト」を実施できる ような組織作り	・アート／美術館が社会 課題に対してどのような役 割を果たせるのかを考 える機会を創出する。 ・アーティストを軸にした アートプロジェクトを運 営することのできる人材を 育成する。 ・地域の福祉／教育現場 との連携関係を築く。 ターゲット:美術館から精神 的／物理的にもアクセスが 最も難しいと考えられる人 1. アート／アーティストを 通じて福祉／医療／教育 における社会課題を見つ め、美術館へのアクセスに 困難を抱える人たちにプ ログラムの参加を促進する。 2. アウトリーチプログラ ムを通じて、美術館へのイ ンリーチを繋げる。				
【①投入】 成立予算	1,840千円	351千円	448千円	2,838千円				
【②内容・活動】 事業の概要	(1)アーティスト・イン・ス クール:アーティストの学校 への派遣 (2)教員向け広報物作成、 無料招待ウィーク:児童生 徒とのつながり手である教 員向けに広報を行い、ア ーツ前橋の事業への理解を 促す	サポーター等と協働しなが らアーツ前橋に親しみ、多 様な芸術に触れるワー クショッププログラムを実施	来館者と一緒に対話しなが ら作品鑑賞をするファ シリテーターの育成。作品 研究の方法や、ガイド プランの作成や、実践 でのコーチングを行い ながら、情報提供 型のファシリテーションを 学ぶ。	(1)アリスの広場×滝沢達 史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)のぞみの家×廣瀬智 央／後藤朋美 が、定期的なワークショ ップやリサーチプログラ ムを行う。				
主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み	図工のキット教材を使った プログラムや、学校の空き 教室に作品を展示するプ ログラムを実施する。	・館外事業をサポーターに より知ってもらうための オンライン講座として、作 家と学芸員の対談形式 でトークを収録し、動画 配信を行う。 ・まちなかのイベントと 連携し、広報活動を効果 的に行う。	コロナの影響によりア ーツ前橋の来館者との 対面プログラムが困難 であることから、表現 の森プログラムと連 動し高齢者施設の利用 者とオンラインによる 対話型鑑賞をテスト運 用する。	コロナの影響により施 設で直接的に出向くこ とが困難であることか ら、コロナ禍において 可能なプログラムを探 る。				
【数値目標】-【結果】	実施校数 1校	結果 1校	オンライン講座 3回	結果 3回	自主研修回数 5回	結果 5回	ワーク ショップ 実施回数 30	結果 30
指標1			あいつひろば 2回		おしゃべり アーティスト AW 参加者数 20人		参加者数 100人	
指標2	参加者数 学校規模 による		参加者数 各10組		受講継続数 10人			
指標3								
【事後記入】								
【③結果、④成果】								
・目的、観覧者層のター ゲット、ねらいに対する成 果(評価調査からトピック 特記事項)								

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。		
細事業別目標 【文化支援／普及事業】	作家の制作支援として、地域性や領域横断性といった特徴を運営体制や調査研究に反映させていきたい。		
事業名称	スタジオ・サポート・プログラム(滞在制作事業の代替プログラム) 1) 榎本浩子 2) 村田峰紀 3) 劇団灰ホトラ	海外の作家とのオンライン制作プログラム 1) キム・ジェミニ	地域アートプロジェクト(長期プロジェクト) 1) スン・テウ ソングプロジェクト 2) 「イミグララジオ」アーツ前橋多文化放送局
時期・日数	(1) 2020年10月1日～11月30日 61日	(1) 2020年10月1日～2021年3月31日 44日	(1) 2020年9月頃～2021年3月末
	(2) 2021年1月5日～2月28日 54日間		(2) 2019年8月頃～2021年3月末
	(3) 2020年10月1日～11月30日／ 2021年1月5日～2月28日 115日間		
場所	堅町スタジオほか	オンライン	市内各地
学芸担当者	池上、五十嵐	五十嵐、池上	五十嵐、池上
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会
最終修正日	2020/12/8	2020/12/8	2020/12/8
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	・県内作家の創作活動支援。 ・制作場所の提供により、制作の機会を与える。 ・当館のウェブサイトやSNSで活動の内容を配信することで、多くの人にアーティストの活動を知ってもらう。 ターゲット: 近隣住民、県内 ① 館外活動により、幅広い層への活動紹介	・多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。 ・海外のアーティストの目を通した地域資源の発掘。 ・前橋の歴史を題材にした作品を通して海外に前橋を発信。 ターゲット: 近隣住民、市内 ① 地域資源の発掘 ② 海外での発信 ③ 多文化交流の機会創出	・現在前橋市内／近郊で増えている外国人と協働で行うプログラムを実施。 ・アーティストのみならず、様々な人が関わり合い、意見を交わし、世代を超えてつないでいく、長期にわたり市民の創造性に訴えることのできる事業を行う。 ターゲット: 地域住民、市内 ① 地域資源の発掘と再評価 ② アーティストと市民の知識の共有と交換
【①投入】 成立予算	5,814千円	879千円	1,765千円
【②内容・活動】 事業の概要	コロナウイルスの影響で国内外のレジデンス事業がすべて延期したため、県内の作家を支援するプログラムとして始動。群馬県在住の作家に対し、地元での制作環境を支援するため、スタジオスペースの提供を行う。	国内外で活躍する外国人作家とオンライン上で連絡をとりながら、滞在制作活動を行う。 本年度は、昨年度韓国の国立現代美術館レジデンス・コヤン(MMC A Residency Goyang)との二国間交流事業により招聘した、1名のアーティストと協働で作品制作を行う。	(1) ベトナム人アーティスト、スン・テウが前橋在住のベトナム人留学生と制作したベトナム語と日本語で歌われる「歌」を街中で流し、それを通して前橋に住む外国人の存在と心情を地域の人たちに感じてもらう。 (2) 外国人をゲストに招くラジオプログラムを通して、市民に前橋市内／近郊に住む外国人をもっと身近に感じてもらう、多文化への理解を深める。
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	・コロナウイルスの影響で、制作／発表の機会を失ったアーティストに対し、活動場所の援助を目的としたプログラムを開始した。	・コロナウイルスの影響で海外からアーティストを招聘できなくなったことから、オンライン上での交流プログラムを開始。これまでアーツ前橋の滞在制作に参加したことのある作家から1名を選出し、滞在した際に残っていた制作アイデアの実現を最終目的とした。	・ラジオプログラムの収録と配信を一月に一度行い、アーツ前橋のホームページで配信する。 ・商店街をはじめ地域の人々に協力をしてもらい、テウが制作した「歌」を1日に一回市内12か所で流す。「聴く共鳴する世界」の関連プログラムとして、展示期間内に実施。
【数値目標】ー【結果】	指標1	指標1	指標1
	指標2	指標2	指標2
	指標3	指標3	指標3
	指標4	指標4	指標4
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)	スタジオ利用に特化したプログラムだったが、新型コロナウイルス感染症の影響で活動機会を失ったアーティストに制作場所を提供することで制作のきっかけを与え、アーティストの活動を記録をすることでコロナ禍での創作活動支援を行うことが出来た。また制作の場としての堅町スタジオの利点を再認識することができた。		
特記事項			

令和2年度 アーティスト・イン・スクール

アーティスト・イン・スクール（AIS）は平成28年度から続く学校連携の事業であり、アーティストやクリエイターを市内の小・中・高等学校へ派遣し、児童・生徒、学校の先生たちとかかわりながらワークショップや授業を行ってきた。児童・生徒たちとアーティストが共同で学び、表現力や発想の豊かさ、コミュニケーション力を身につけることを目的としている。

本年度は、コロナの影響で学校側の受け入れが難しくなり、予定されていた市内の小中学校3校での実施が中止となった。7月頃、市内宮城小学校の先生より AIS 事業の受け入れの申し出があり、学校との協議の上、2学期よりアーティストを学校へ派遣し事業を実施している。

□対象校 前橋市内の小学校 1校

宮城小学校 [新規]

アーティスト：中島佑太（なかじまゆうた）

対象：主に4年生、6年生（休み時間などに児童と一緒に遊ぶなど全校生徒を対象としている）

内容：2学期より2週間に一度ほどのペースで学校へ通い、児童との交流を図っている。授業では図工の授業の補助教員として関わるほか、自身の作家としての活動をプレゼンテーションする回もあった。ほか、コロナ禍ならではのソーシャルディスタンスかるた大会を教員と一緒に考え、児童と大会に参加したり、体育や学級活動の授業に児童と同じ立場として参加するなど、図工の授業以外にも多くの機会で児童と交流を深めている。引き続き、今後も授業に参加していく予定である。

○プロフィール

1985年群馬県前橋市生まれ。2008年東京芸術大学美術学部卒業。

大学在学中に地域と関わるアートプロジェクトに触れて以来、社会や他者との関わりの中で個々の表現をするワークショップを独学で探求する。身の回りにあるルールやタブー、人々が持っている“当たり前”を、日常とは異なる視点から問い直し、遊びや旅を通じてその書き換えを試みている。近年は、前橋市内にある複数の保育施設に活動拠点を置き、子どもたちとの関わりを通して、その周辺の社会の問題や課題をリサーチし、アーティストならではの提言なども行っている。

□「キット教材プロジェクト」

宮城小学校での大きなプロジェクトとして図工のキット教材を使ったプロジェクトを実施した。

アーティスト：中島佑太、CLEMOMO（クレム＆モモコ）、牛嶋直子、豊田共子、木暮伸也、榎本浩子

対象：6年生

日程：10月～11月

内容：図工のキット教材を使って6組のアーティストが作品制作にトライし、動画撮影を行う。アーティストの自由な発想、作り方を児童たちに動画で見せる。悩んだり、トライ&エラー繰り返したり、他者から学び、多様性を認めあう姿勢を児童たちと共に学ぶプロジェクト。

具体的には・・・

6年生及び作家は同じキット教材「アミアミアミーゴ」を使い2回作品制作を行う。

【スケジュール】

<動画撮影>

■10/22(木) (9:40～放課後まで)

◎県内を拠点に活動する6組7名の作家が宮城小学校図工室に一堂に集まり、キット教材を使って作家ならではの自由な発想や手法で作品制作にトライし、その様子を撮影した。

◎6年生の児童は休み時間等に図工室に見学に訪れた。

<児童のみ1回目制作>

■11/2(月) 3、4、5限で1回目キット教材制作 (6年1、2組両方同日に実施)

◎1回目は教科書やキット教材の記載に基づき制作した。

<児童動画視聴>

■11/10～11/19の期間

◎10/22に撮影した動画を、学校の業前時間などを使って児童のみで視聴を行う。(15分×3回)

<ディスカッション+2回目の制作>

■11/20(金) 6年1組：参加作家：中島佑太、クレム&モモコ、牛嶋直子

■11/27(金) 6年2組：参加作家：中島佑太、豊田共子、木暮伸也、榎本浩子

◎ディスカッション1校時+制作3校時

ディスカッションでは、動画視聴の感想や2回目制作の意味、制作のアイデアなどを児童と作家が対等な関係で一緒に考え、制作は両者が交流しながら行う。

□その他

事業報告・記録映像作成

報告書作成：パンフレット仕様検討中

事業コーディネート：NPO まえばしプロジェクト

撮影・編集：岡安賢一

スタジオ・サポート・プログラム概要

現在新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの表現者が発表や活動の場を持つことが困難となっている状況をうけ、本年度アーツ前橋では滞在制作(AIR)事業に代わり、群馬県在住のアーティストに制作の場を支援する「スタジオサポートプログラム」を実施。公募によりアーティストを募集し、前期、後期(各約2か月間)に使用期間を分け、堅町スタジオを使用し、制作活動をおこなってもらう。また制作費として10万円を支給する。

<審査結果>

10名の応募があったなか、審査員3名による厳密な審査を行い2名のスタジオ利用者を選出。また審査員による話し合いにより、劇団灰ホトラを特別選考として、制作費の支給がないかたちで2スペースあるうちひとつのスタジオスペースを利用し、前期、後期通して活動をおこなってもらうことを決定した。

■審査概要

応募期間:2020年7月10日(金)~8月17日(月)

審査員:竹村京(アーティスト)

木暮伸也(写真家)

住友文彦(アーツ前橋 館長/東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授)

■審査結果

プログラムA(前期):榎本浩子(アーティスト)

スタジオ利用期間 2020年10月1日~11月30日 終了(使用日数42日間)

プログラムB(後期):村田峰紀(アーティスト)

スタジオ利用期間 2021年1月5日~2月28日

特別選考:劇団灰ホトラ

スタジオ利用期間 2020年10月1日~11月30日 終了(使用日数40日間)

2021年1月5日~2月28日

■現時点での報告

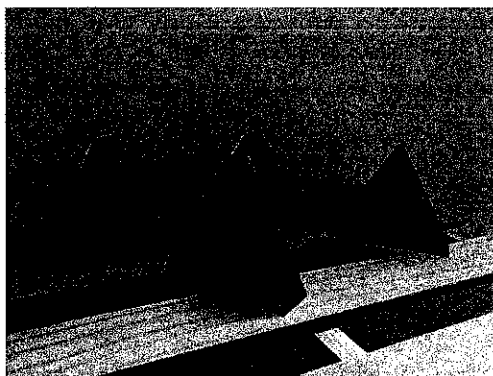
榎本浩子は堅町スタジオ利用中、自宅のスタジオだと作業が難しい作品のインスタレーションに使用する石鹼制作を中心に、蜜蝋の彫刻の制作などをおこなった。当初予定していた100個には満たなかったが、約50個の石鹼を制作した。

灰ホトラは、コロナウイルスの影響で演劇の稽古場として使用していた公民館が使えなくなったことから、翌年行われる「せんかわ演劇コンクール」に向けて活動できる場所として堅町スタジオを使用した。役者を交えての稽古のほか、執筆活動などを集中におこなった。

榎本氏の制作風景



制作した石 鱈



灰ホトラの稽古の様子

